



ジョナサンの精神を完全に破壊するためエリナ・ペンドルトンを辱める計画を企てる  
ディオ・ブランドーの思惑は、彼女の高潔なる精神によって失敗したかに思えた。  
しかしプライドを傷つけられたディオはさらに残酷な行動に出る。

—あなた方のような卑怯者に……私は絶対屈しません！

# 数日後

手下たちと共にエリナを拉致したディオは三日三晩、エリナを犯し続けた。最初は激しく抵抗し、心だけは屈すまいとしたエリナだったが・・・ディオたちの底なしの性欲と体力の前について崩れ落ちた。

3人共20cmはあろうかという逞しいチンポで幼い蜜壺をほじられ続け開発されつくした身体は大量のメスホルモンによって淫売のように豊満になった。生理的に嫌だったはずのチンポも今となつては見ただけでよだれを垂らし奥までジュポジュポとむしゃぶりつきたい欲求にかられる。それを自覚したときエリナ・ペンドルトンは根底から変わってしまった。

ジョジョに恋する可憐な乙女はたった数日でゲロ以下の淫売に成り下がったのだった。朝も夜も馬並みチンポにまたがり続け、平然と想い人を貶しながら腰を振りむしろそれで更なる興奮する最低の女になった。これもディオの計画通りだった。



